

霧島・硫黄山における噴気温度連続観測*

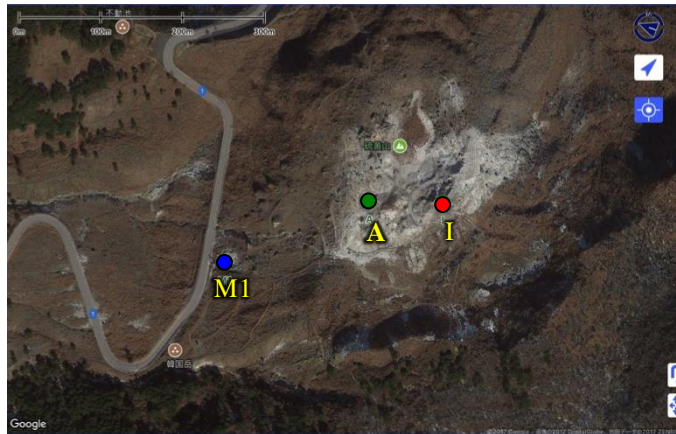
Continuous monitoring of fumarolic temperature at Iwo-Yama, Kirishima volcanoes

九州大学大学院理学研究院 地震火山観測研究センター**

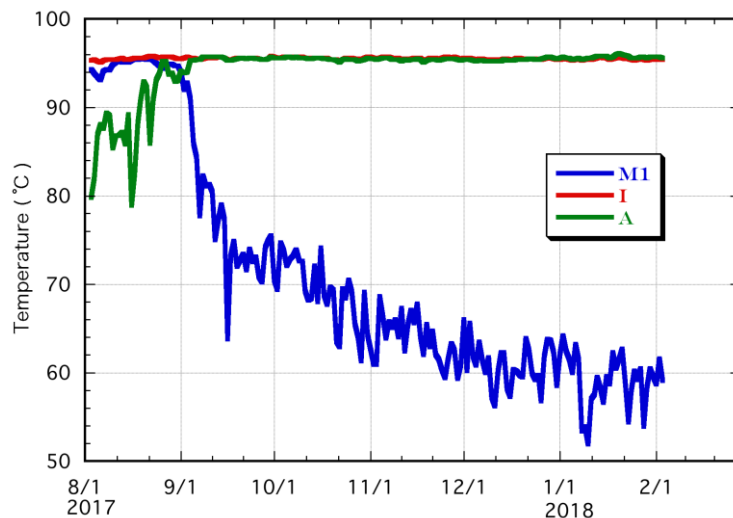
Institute of Seismology and Volcanology, Faculty of Science, Kyushu University

2017年8月より硫黄山の3ヵ所において噴気温度の連続観測を実施している(第1図)。センサーはハステロイC製の保護管にいた Pt100 温度計を使い、携帯電話通信により10分毎の温度を毎日1回クラウドサーバーに転送している。第2図に各噴気孔の温度変化を示す。噴気Iはほぼ沸点温度を保っているが、噴気Aは温度が徐々に上昇し、県道沿いの噴気M1は9月上旬から下降している。硫黄山では一部の噴気孔がドライアップして沸点を超えている場所もあるが、我々の設置点ではまだドライアップしていない。

観測点設置にあたっては、田島靖久博士、古園俊男氏、篠原宏志博士の協力を得た。ここに記して感謝する。地図の作成にはGoogle Map(衛星写真)、スーパー地形を使用した。



第1図 噴気温度観測点配置図。噴気地点の記号(A, I, M1)は、東大震研の資料と同一である。
Fig. 1 Monitoring site of fumarolic temperature at Iwo-Yama.



第2図 各噴気地点の温度変化。1日毎の最大値をプロットした。

Fig.2 Temporal change in temperature of each fumarolic site. The daily maximum values are plotted.

* 2018年3月15日受付
** 松島 健